第四回館山市議定会定例会會議錄

(第一号)

昭和四十五年十二月招集

第四回館山市議会定例会会議録（第一号）目次

日		三
場		三
出席議員		三
欠席議員		四
出席説明員		四
出席事務局職員		五
議事日程		五
開		六
会		六
出席説明員の報告		六
議案の配付		七
会議録署名員の指名		七
会期の決定		七
提案理由の説明		八
行政一般質問		一一
議案の上程（議案第七十八号）		二六

議案の内容説明		二六
採 決		二七
議案の上程（議案第七十九号）		二七
議案の内容説明		二七
採 決		二八
議案の上程（議案第八十号）		二九
議案の内容説明		二九
採 決		三〇
議案の上程（議案第八十一号）		三一
議案の内容説明		三一
採 決		三二
議案の上程（議案第八十二号）		三二
議案の内容説明		三二
採 決		三三
議案の上程（議案第八十三号）		三三
議案の内容説明		三四
採 決		三四
議案の上程（議案第八十八号）		三三
議案の内容説明		三三
採 決		三三
本日の會議に付した事件		六七

二七番

安 沢 徳 順

二八番

望 月 照 正

一、欠席議員三名

八番

黒 川 正

一一番

菊 井 敏 博

二九番

鈴 木 市 藏

一、出席説明員

市長

本 間 哲 三 讓

収入役

高 木 哲 三 讓

人事課長

小 沢 正 治

庶務課長

小 倉 澄 男

市民課長

佐 野 甲 子 郎

収納課長

横 溝 功

水産課長

谷 貝 茂 生

土木課長

飯 田 治 男

保健課長

綱 島 憲 治

水道課長

大 嶋 重 義

市民センター館長

羽 山 房 雄

消防長

星 野 清 之 助

教育長

高 木 正

助 役

島 山 博 彦

秘書課長

太 田 博 雄

企画課長

伊 藤 幸 太 郎

財政課長

長 谷 川 広 治

調査課長

越 路 良 夫

農産課長

石 井 謀

商工観光課長

鈴 木 力

建築課長

池 田 春 雄

衛生課長

牧 野 喜 一

福祉事務所長

斉 藤 武 男

診療所事務長

吉 岡 政 雄

消防本部次長

岩 田 政 実

教育委員会長

汐 崎 政 光

教育委員
学校教育課長 吉田隆夫

教育委員
保健体育課長 川上賢爾

教育委員
社会教育課長 小宮義夫

選挙管理委員
書記委員長 高山隆男

監査事務局長 榎本繁

農業委員
事務局局長 岩崎一郎

一、出席事務局職員

事務局長 高梨清一

事務局長補佐 高尾豊

書記 兵藤恭一

書記 錦織睦子

書記 渡辺弘

書記 川上義雄

書記 木高松雄

一、議事日程(第一号)

昭和四十五年十二月十八日午前十時開議

日程第一 会議録署名員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 通告質問

日程第四 議案第七十八号 昭和四十五年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

日程第五 議案第七十九号 損害賠償の額を定めることについて

日程第六 議案第八十号 千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定について

日程第七 議案第八十一号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第八

議案案八十二号 人權擁護委員候補者の推薦について

日程第九

議案第八十三号 昭和四十五年度館山市一般会計補正予算(第五号)

議案第八十四号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

議案第八十五号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第三号)

日程第十

議案第八十六号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計補正予算(第二号)

議案第八十七号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計補正予算(第一号)

議案第八十八号 昭和四十五年度館山市ユースホステル特別会計補正予算(第一号)

日程第十一

請願書

開 会

午前十時十三分 開 議

○ 議長 (西村真次君) 本日の出席議員数二十五名、これより第四回市議会定例会を開会いたします。

出席説明員の報告

○ 議長 (西村真次君) 本定例会の議案審議のため地方自治法第二百二十一条の規定による出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木収入役、太田課長、長谷川課長、小倉課長、小沢課長、鈴木課長、池田課長、飯田課長、石

井課長、佐野課長、越路課長、横溝課長、斎藤所長、伊藤課長、谷貝課長、網島課長、牧野課長、大嶋課長、羽山館長、星野消防長、岩田署長、高山書記長、榎本局長、岩崎局長、吉岡事務長、高木教育長、汐崎課長、吉田課長、小宮課長、川上課長以上の者が出席する旨の報告がありました。

議案の配付

○ 議長（西村真次君） 議案を配付いたします。議案の配付漏れはありませんか。―配付漏れなしと認めます。

会議録署名員の指名

○ 議長（西村真次君） 日程第一、会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に一二番議員小柴孝君、三〇番議員山口康君以上兩君を指名いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

会期の決定

○ 議長（西村真次君） 日程第二、会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき議会運営協議会の意見は、本十二月十八日より十二月二十一日までの四日間ということであります。

おはかりいたします。会期を四日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって会期は十二月十八日から十二月二十一日までの四日間と決定いたしました。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

提案理由の説明

○ 議長 (西村真次君) まず、これより本定例会招集につき市長のあいさつを求めます。本間市長。

(市長 本間護君登壇)

○ 市長 (本間 護君) ごあいさつ並びに提案理由について御説明申し上げます。

本日、ここに十二月定例会を招集しましたところ、議員各位には年末御多忙にもかかわらず御参集をいただきまして、まことに恐縮に存ずる次第でございます。

御承知のごとく、去る十一月二十日行なわれました市長選挙に際しましては、市民各位の絶大なる御支援によりまして、三たび館山市の市政を担当することになりましたことを深く感謝しておる次第でございます。私も強くその責任の重大なることを痛感いたすとともに、心を新たにして私心を離れ明るく豊かな文化福祉都市建設に全力を傾注いたしたいと念願いたしております。市勢伸展の基盤はもとより議会の積極的な御協力なくしては望み得ない

ものであります。今後ともより一層議員各位の絶大なる御支援をお願いする次第であります。

さて、本日上程いたします案件は一般議案関係五件、予算関係六件であります。

まず、人権擁護委員候補者の推薦であります。同委員につきましては、市町村長が議会の意見を聞いて推薦した者のうちから法務大臣が委嘱することになっております。この十一月十四日をもって五名が任期満了となっておりますので、法の定めるところにより後任委員の候補者を推薦しようとするものであります。また、固定資産評価審査委員につきましても、一名が十一月三十日をもって任期満了となっておりますので、その後任につきまして地方税法の定めるところにより選任しようとするものであります。両委員ともぜひ議会の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。

次に、本年七月三十一日本市の清掃自動車が公務従事中、交通事故を起こし損害を与えたので、これにかかる損害賠償の額を地方自治法第九十六条第十二号の規定により、市議会の御賛同を得て定めようとするものであります。次に、千葉県旧市町村恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定であります。同組合に本市が加入しており、この構成市町村のうち我孫子町が市に、上総町ほか三町村が君津町に合併した関係で規約の一部を改正しようとするものであります。

このほか、十二月に支給する期末手当につきまして、昨年と同率をもって支給しようとする特例条例の制定などがあります。

次に、予算関係としましては、一般会計ほか五特別会計に及ぶ補正であります。一般会計歳入歳出補正につきましては、総務費で市広報の発行回数増加に伴う印刷費三十五万円、電算機導入に伴う納税通知書の印刷費三十九万二千元、来年四月に予定されております県知事及び県会議員選挙費九十万円、民生費関係では一人当たりの医療費の増加と医療単価の引き上げに伴う高令者医療給付金四百七十八万一千二百円、医療扶助費一千四百三十五万

三千円、措置基準の引き上げに伴う生活扶助費三百九十五万五千円、老人ホーム収容措置扶助費百二十五万三千円、保育基準の引き上げに伴う保育所関係経費七十四万二千円のほか児童手当交付金等で百八十七万二千円の減額があります。衛生費では臨時職員の増加に伴う賃金四百九十八万一千円、農林水産業費関係で作名農村協同館建設工事費二百三十五万円、豊房育成牧場の施設工事費及び機械器具購入費として三百九十五万八千円、山本の暖地園芸試験場に至る農道の舗装工事費六百万円、富崎地区三漁協の沿岸投石事業費補助金として県補助金四十三万九千円に市費を加えて六十二万二千円、館山船形漁協の給油船購入補助金として県補助金の百二十万円で市費を加えて百六十万円、県営事業であります船形、富崎両港の修築事業費の減額に伴う負担金二百九十一万七千円の減額があります。商工費では千葉県中小企業会館建設に伴う補助金三十五万円、土木費では道路維持補修工事費百万円、教育費関係としまして学校給食組合分担金一千三百三十五万七千円、本間議氏からの指定寄付による富崎小学校図書館図書購入費四十万円、小学校の電気水道料五十一万五千円、館山小学校の防音校舎実施設計及び地質調査委託料七百二十五万四千円がおもなものであります。

なお、各款にわたり本年十月から引き上げました特別職の報酬及び一般職員の期末手当等の人件費で一千九百六十万三千円の補正があり、この歳出合計額は八千八百七十一万八千円となりますが、これが財源といたしまして国、県支出金三千六百五十六万九千円、市債五百九十万円、その他特定財源百九十九万九千円のほか他を一般財源により充当しようとするものであります。

次に、債務負担行為の補正であります。市庁舎の増築工事につきましては、市開発公社に建築を委託し、その工事費六千二百五十六千円及び関連経費を昭和四十六年から五カ年間で支払う関係及び電子計算機を来年一月から昭和五十年十二月まで借り上げる関係でこの借り上げ料にかかわる債務負担行為の追加であります。

地方債の補正については、県知事の許可の段階で修正がありましたので、これを補正しようとするものであります。

このほか、国保会計では診療所の患者の増加に伴う医薬品購入費二百万円、診療所の雨漏り修繕工事費七十万円のほか合計で二百九十二万円、簡易水道会計で百四十九万七千円、と畜場会計で二十四万一千円、休養施設会計で三十万五千元、ユースホステル会計で四十四万八千円の補正があります。

以上簡単な説明であります。詳細につきましては、各課長等から説明させていただきますので、慎重なる御審議のほどをお願い申し上げます。以上で説明を終わります。

○ 議長 (西村真次君) 以上で市長のあいさつ、説明を終わります。

行政一般質問

○ 議長 (西村真次君) 日程第三、通告による行政一般質問を行ないます。

かねて申し合わせ協定の十六日正午までに通告のありました議員は一人であります。一八番議員安西益男君。

(一八番議員安西益男君登壇)

○ 一八番 (安西益男君) 私は、館山市の公害問題につきまして当局の公害対策に対するお考えを御質問申し上げます。お願いします。

御承知のごとく、今や公害問題は七〇年代の最大の重要課題として連日マスコミに取り上げられ、日常生活における第一の関心事となっております。権威ある学者たちによれば公害の実態を通し、また環境破壊の実情をあげ人類絶滅の危機であるとして、果して二十一世紀を迎えることができるであろうか。それまでに滅亡してしまうのではなからうかときわめて深刻な疑問を提起しております。そして今は死者が出るほどの汚染は限られた地域ではあるが、全体的な汚染の進行も時間の問題でしかないであろうともいわれておるのでございます。もはやこの公害

問題に関する限り対岸の火事であるかのごとき感覚では許されない現状にきておるのでございます。そして千葉県は特にあらゆる公害の発生条件下にあるといわれており、今後どのような影響を受けていくのかはかりしれないのでございます。すでに新聞等では東京湾の海水汚染度は年々ひどく漁業関係者、特にあぐり網業者は漁業権放棄を迫られておるといふ苦境に立たされておるといふことであります。今後のなりゆきはまことに深刻であるといわなければなりません。

さらに、汚染大気の流動も何らかの影響あるものと思われるのでございます。県におきましては、四月一日従来の公害課を公害対策課、公害規制課とし、さらに七月一日衛生部に公害対策局を設置いたしました。しかしながら問題はきわめて重大視しつつあり、従来の県公害防止条例の全面改正並びに規制基準の制定について県公害対策審議会に諮問中であります。そして今後公害防止に関する権限は大きく地方首長に移譲され、地方自治体におきましても公害防止の計画を策定し、その防止策を積極的に検討せねばならぬ時点にきておると思われるのでございますがいかがなものでありませんか。

次に、館山市における公害の実情について私の調査結果を申し述べ、当局の今後の対策をお聞かせ願いたいと思っております。私は最近湊川において奇形のハゼがつかれるとしばしば聞かされておりましたが、先般館山保健所に参りまして衛生課長さんにそのような事実があるかどうかということを確かめたのでありますが、課長さんいわく、昭和ケミカル付近でつかれたという奇形のハゼを今水産試験場に調査を依頼してあるとのことです。なお、驚くことにその付近では十匹に一匹の割合で奇形のハゼがつかれるとも話しておりまして、このような現象はごく最近のことです。そして昭和橋付近の人たちの話を聞いてみましたが、このまま放置できない何点かの事実を知ったのでございます。それは今年の夏のことです。また、近くの雪印乳業の職員の人たちのお話ですと、風の方

によつては臭気がひどく食事も思うように取れないということであります。ときおり黒づんだ水が流れ、ハゼは死んで浮いており、そういうこともしばしば見受けられる。このようにも申しておたのでございます。

次に大賀の小宮味工付近における悪臭、汚水の問題は住宅が密集しておるところであるだけに春から夏にかけては問題も深刻であり、ことに小宮味工のところを流れるかにた川は悪臭、汚水でひどく、その付近の海岸地帯は海水浴場指定地になっておるにもかかわらず何らの防止策も講じられておらず、環境衛生上まことに心配な状況にあります。付近の人たちは夏の海岸の状態をぜひとも関係者に見てもらいたい。このようにも訴えておりました。そしてかつてはあの川にはウナギが取れ、遠く他町村からも取りにきておたのでありますが、今は全く死滅したかのごとく全然ない。また貝類も今は全然姿も見られないということであります。

また一方、船形方面における魚加工工業の実態についてであります。加工時期になりますと、約十軒くらい業者による加工が行なわれるそうでありますが、その際の悪臭はひどく、汚水は付近一帯の下水道に流され住民の悩みとなつておるのでございます。まことに環境衛生の面からも何とか解決しなければならぬ問題と思ひます。したがつて、加工の際の煤煙、悪臭の公害の発生防止をするためにも必要な機械、器具及び装置並びに工作物の購入施設改造等に抜本的な対策を講ずるよう監督、指導し、そのために要する資金については公害防除の施設、設備の助成の融資制度を設け、施設の完備をはかるべきと思ひます。

十一月月上旬安房女子高の文化祭において同校の郷土研究部並びに自治問題同好会による調査発表がなされ、すでに公害が館山市の市民生活の中にまで及んでいることを示し、当日のことが写真入りで大きく報道され、観光館山の町にも公害が広がるうとして市民に大きなショックを与えたのであります。この調査は、館山市を市街地、農村漁村等五地区に分け三千人を対象にアンケートをまとめ、三カ月にわたつて作成したものであります。その発表によりますと、全体の五〇%が何らかの被害を受けておると注目すべき回答を寄せております。そして少数の人たち

ではありますが、農業による被害を訴えている人もあるということでございます。なお、アンケートによると公害をひどくしている原因としてまず第一に企業や個人の責任感の不足である。二番目として公害取り締まりのための法律や施設の不備。三番目としては公害を防止するための技術のおくれ。四番目として下水道等の公害防止施設のおくれ、その他となっております、いずれも適切な回答と思われるのであります。

また、公害対策として政府や地方自治体にどう望むかとのアンケートについては、企業側に公害設備を設けるといふことが第一番目の回答であります。二番目として下水道の整備、関係法令を強化して厳重に取り締まる。次に公害防止のための広報活動を積極的に進める。その他となっております、その豊富な調査資料が発表されております。今や、日本全国をおおっている公害の危機感の中にありまして、当市におきましても公害未然防止の観点から騒音、悪臭、河川の汚濁、さらにまた公共下水道処理施設が強く要望されておるのでございます。現在公害防止対策についてはどのような方針で対処されるのか。たとえば、公害発生源対策、地域の汚染物、土地利用計画、公害規制基準の関係、環境基準のあり方等。尚又監視測定体制の有無、公害予防策、対策費の計上がどうあるか等々、このように公害の現実を直視するとき公害の被害は信じようと思ひなかりと刻一刻波及しておることは認めないわけにはいかなのであります。そして権限委譲がされておる今日、今後の対策を考えた場合どうしても公害課の設置をし、専門的立場より対処すべきと思われませんが、当局はどのような方針で進まれますか、お伺いいたしたいと思うのであります。以上です。

(市長 本間譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 安西議員さんの御質問に對しまして御回答申し上げたいと思ひます。

安西議員さんは非常に詳細にいろいろ御調査をされまして、その點に對しましては敬意を表したいと思ひます。公害の防止対策につきましては、その基本となります法律について御承知のとおり現在国会において審議中であり

まして、その骨子は産業優先であった従来の法律から人間尊重すなわち住民福祉優先を基本とする法律の成立に對して活発なる論議が展開され、われわれ国民の生活環境が保全されることにより国民福祉が増進されるものと思考されます。

市当局といたしましても、市民福祉優先と公害防止の重要性にかんがみ、公害発生のおそれある企業は絶対に誘致しない。また企業等において公害防止の設備を怠るような場合は、これを許可しないというような基本の方針を堅持して参る所存でございます。さらに先般市独自の公害防止条例の制定を考慮し、その準備もいたしたのであります。またま県の公害防止条例の改正が行なわれ、当市に特に関係のある特定河川及び全海域が指定水域となつて嚴重なる規制対象となり、さらに明年中に改正される水質保全法により全河川が指定水域となる關係上市は県の委任を受けて責任を持って相当嚴重なる規制、管理、指導を実施せねばならぬと思ひます。さらに上方優位の法律原則からして市独自の条例制定を見送つた次第であります。

公害防止対策の重要性は十分認識しており、このために市は早く環境監視制度を採用して、各種廃棄物の不法投棄を取り締まつて環境の浄化につとめつつあり、また来年度にはごみ収集区域を農漁村すなわち全市域に拡張して、ごみの不法投棄による公害発生を未然に防止する計画であります。さらに夏季には海水浴場の水質浄化のため河口に波菌装置を設置し、一方市内の事業者や市民の方々に範を示す意味もあり、市が率先してと畜場の汚染浄化装置を建設中であります。

県公害防止条例にかかわる本市に対する委任事項につきましては、現在は騒音、震動及び悪臭等の公害について県から権限の委譲を受け、取り締まりを行なうことになっております。目下市内における工場、事業所等に設置されている機械及び施設の特定制について届出を受付中でありまして、これが終了次第県当局及び關係機関と協議審査の上市としての公害防止に関する計画を策定する方針であります。なお、騒音、震動、悪臭以外の公害につき

ましては、県が直接規制を実施しており、市が全面的な協力体制を整えておりますが、今後さらに検討を加えて県に対して事務委任を申請し、万全を期して参りたい所存であります。

公害行政を進めていく上の機構についてであります。本年度からは衛生課に公害担当の係として専門の技術職員一名、事務職員一名を新たに配置するとともに監視員二名を加えて四名をもって公害に関する指導、取り締まりを実施し、必要に応じて機構の充実をはかって参りたいと考えております。

次に、市内における公害の発生状況であります。所々の事業所等から悪臭、汚水、騒音等の発生が散見されますが、その程度はいずれもほぼ規制規準以内であります。しかしながら特に汚水が川や海に流出する場合には水産資源ひいては市民の健康にも何らかの影響を及ぼすかもしれませんので、慎重を期し国、県の研究機関等の指導をおおぐとともに汚水、廃液等について厳重な検査を実施し、公害を未然に防止する措置を講ずる方針であります。

次に、公害防止施設に対する融資制度につきましては、現に国としては中小企業金融公庫貸付金、公害防止事業団貸付金等の制度があり、また県においては設備近代化資金融資、中小企業設備改善利子補給及び共同公害防止資金融資の諸制度があって施設の整備等を行なう事業者に対しては助成措置を行なっております。本市の融資制度といたしましては、中小企業資金融資がありますが、現に一部事業者は公害防止のための設備改善資金としてこの制度を利用しておる状況であります。本制度ワクの拡大、融資条件等について検討し充実をはかって参りたいと思えます。

要するに、公害対策の要諦はこれを未然に防止するにあるものと考えますので、恵まれた館山市の自然環境をかきりすめにも汚染、破壊することのないよう十分配慮するとともに適切なる措置を講じて参りたいと存する次第でございます。以上申し上げまして安西議員さんに対する御回答といたしたいと思います。

○ 一八番 (安西益男君) ただいま市長さんの御回答によりまして、なお若干お尋ねしたいと思います。

今後はたいへん前向きなそうした立案に着手しているというようなことでありまして、今までの状況をどのよう
な現状を把握しておるかという点につきまして若干担当課長さんにお伺いしたいわけでありまして。先ほども申し上
げましたように、昭和ケミカルの実情がありますが、この点につきましては、現在保健所といる連絡もお取り
と思いますが、どの程度現状を掌握しておりますか。まずその点からお伺いしたいと思います。

○ 衛生課長（牧野喜一君） 御質問の昭和ケミカルの公害関係についてお答え申し上げます。

まずあそこの製造の過程でございますが、あそこではアミノ酸とかんてんをつくっておるわけでございます。し
たがいはして、その製造過程から御質問のような臭気並びに汚水、排水がなされるわけでございますが、その状況
でございますが、私、实地に調査いたしましたところ、まず臭気についてでございますが、アミノ酸については工
場内では相当のにおいがいたしております。担当の常務さんにいろいろこれが対策についてお聞きしたわけでご
ざいます。それで、なるべく臭気が周囲に発散しないようにふたをしてこういうことのないようにすること
でございました。

それから廃液の関係でございますが、これは一応中和をいたしまして、沈でん池で浮遊物等を沈降させまして、
それから排水しておるわけでございます。簡単にそういうふうに申し上げたんですが、その間先頃県のほ
う、保健所を通じてこの廃液の検査が行なわれまして、近く県のほうからその検査結果に基づいてこういう状況で
あるからこうされたいというような指示があるそうでございますが、私のほうで前もってその状況をお聞きしまし
たところ、専門的になるのでございますが、酸素イオン濃度とか、生物化学酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊
物質量、色、臭気こういうものにつきまして県のほうで検査した結果は、生物化学的酸素要求量いわゆるBODで
ございますが、これが若干基準の許容の量を上回っておるということでございます。そういうようなことでござ
いまして、その点も担当の常務に話しまして、なるべくこういう基準を越えることのないようにということ

を市の立場としても申し上げましたところ、排水の沈でん池について見ましたところ構造上ちょっとぐあいのわるい点がございましたので、それを近く改造をいたすというようなことでございまして、この廃液による奇形ハゼ等の検査結果につきましては、専門家の水産課長のほうにお願いしたいと思います。

○ 水産課長 (谷貝茂生君) ハゼの問題ができましたのでお答えいたしますが、保健所、水産試験所のほうに依頼してその原因を究明しているということでございましたが、試験場のほうに照会いたしましたところ、東海大学の先生に依頼をしていろいろ検査していただいたそうでございますが、これはひとり館山ばかりでなくほかの地域でもこういう現象がぼつぼつ出ておるということで学者間におきましては、公害による影響だということと全然そういったものは関係がないのだという説も出ています。まだはっきりとした原因はつかめないということでございまして、ただいえることは大体人間でいうと表面のがんなような傾向のものであって、しかしながら身体にはこれを食しても全然影響がないということとさらに研究を重ねるといふような回答が出ておりますので、簡単でございですが一言申し上げます。

○ 一八番 (安西益男君) 衛生課長さんのほうからお尋ねいたします。ケミカルに行きましたのはいつ頃でございましょうか。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) 私のほうの担当者は前にも行っておりますが、私実際現場に参りましたのはきのうでございます。終ります。

○ 一八番 (安西益男君) きのう行かれましたいろいろなその実情をお知りになった。こういうことでございまして、行くことによってだいたい工場側といたしましても、今後非常に非常に前向きな姿勢というものが伺われるわけでございます。改造するあるいは基準を越えているということもわかったということとございまして、またBODですか、廃液等につきましては、あそこのためにかいうのがありまして、黒いぬるぬるしたものが流れるということ

で非常に悪臭を発散するということがあります。これは先ほども申し上げましたように、煙突から出る煙それによって付近の麦が枯れるというようなこと、それを年々重ねていきますと、土壌にやはりそういった汚染がしみ込んでしまうということになります。これは今後相当な検討を加えなければならぬのではないかと。このような点も感じられるわけでありまして。

また、ハゼのことにつきましては、原因がどうこうという点はどうもはっきりいたしません、いずれにいたしましてもごく限られた地域、最近ということになりますと、どうしても関連性ということも考えていかなければならぬと思います。したがって、その点等につきましては、保健所等もお一そう連絡を取りましてそういった実情を示しまして、同工場に注意方を強力に要望願いたい。この点につきましては、そのように思うわけでございます。

次に、東京湾の、これは問題としては非常に大きいわけでございますが、一応態勢としては県ないしは国等との連絡を取っていかなければならないのではないかと。このように感じます。ごく最近におきましては、西岬でヒラメが奇形といますか、相当大きなヒラメがそういったものがつれた。そういうことも聞いておりまして、館山湾は空気もいいし水もいいという感覚があるとすれば、今後のものに対しても心配ではないかと思うわけでございます。御承知のように直接こととしては大きな被害もありませんし、今後そういったことも考えられないという点もあります。いずれにしても水俣病あるいはイタイイタイ病というようなあいつたものは五年、十年たつて人体にそういった状況が現われて大きな問題になっているわけでございますので、この公害問題は昨今非常に急激な進み方しておりますので、そういった海上汚染等につきましても今後対策を講じていかなければならぬのではないかと。いかというふうに思いますが、この点につきましてもどのようなお考えか、水産課長にお尋ねしたいと思います。

○ 水産課長 (谷貝茂生君) 漁業者の生活を維持していくために海水の浄化ということ是非常に大きな問題でございますが、ただ実際問題といたしまして、当市におきましても今まで水産の実態を見ましたところ、まだこれと

いった被害は出ておりませんが、東京湾の問題もございませし、重大な関心を持ちまして対処していかねければならぬと考えておりますが、ただ監督の権限とか、それから技術的な面での原因の究明とかにつきましましては、それぞれ関係機関等ともう少し密接に連絡を取りながら対処して参りたい。かように考えております。

○ 一八番 (安西益男君) それに關連しまして河川の問題であります、これはいたるところ洗剤、各家庭からの汚水とかどこでもそうだと思いますが、この点につきましても野放しではいけないのではないか。このように思うわけでございます。清掃法にもこれはきちんとした規制というものがうたわれておるわけでございますが、実際問題としてはなかなかむずかしいと思われます。しかしながら現時点におきましては、そうしたやはり観念を植えつけていくという広報的な活動にも入っていかねければならぬ。このようにも思うわけでございます。特に四十二年度におきます公害対策基本法等によりますと、地方の公共団体の責務としては、第五条に「地方公共団体は住民の健康を保護し、及び生活環境を保全するため国の施策に準じて施策を講ずるとともに、当該地域の自然的、社会的条件に応じた公害の防止に關する施策を策定し及びこれを実施する責務を有する。」このようにもありますし、また事業者の規定というものもなされておるわけでございます。そういった面でやはりもうすでに何点かあげました面からも、地方公共団体としての立場からそうした国に準じた方向に向いていかねければならないということでもあります。この点につきましましては、現在立案中というさつき市長さんからもお話しがございましたので、この点十分期待してみたいと思ひます。

河川の問題でございますが、これは各家庭からの汚水等は非常に問題が大きくなっておるといふことは、浄化槽等につきましましては全然消毒もなにもしないで、大した処理をされないので下水を流れるのが実情というふうにも聞いております。したがいまして、河川から流れていく汚水は海に注がれる。あるいはごみ等もおかまいなしにどんどん流されるというのが現状というふうにも伺ひます。そうした面からどうしても今後は公共下水道の終末処理施設

というものを真剣に考えなければならぬのではないか。特に今回の六十四臨時国会におきましては、建設大臣は昭和四十六年から五カ年にわたってこの下水施設に対する大幅な援助というものを打ち出しておりまして、二兆六千億というようなことも発表されておるようでございます。また交付金、起債等にも大幅な勘案をしていくということも発表されております。したがって、現時点におきましては、そういう方向、そういう計画というものがなされていかなければならない。本年度におきましては、下水道の調査費というものも計上されてそういう態勢にのぞまれておるといふことも聞いておりますが、その点につきまして現在までどのように調査されてこられたかということ、今後やはりそうした計画を立てなければならぬと思うわけでございますが、さらにこの都市計画が進んでいきますと、また二重、三重にも施設をやりなおさなければならぬという点も考えられると思いますが、そういう方向につきまして担当課長さんからお伺いしたいと思います。

○ 土木課長（飯田治男君） 公共下水道の基礎調査につきましては、本年度七十万当初予算に予算化いたしました。現在日本上下水道株式会社に調査を依頼してございます。今後都市計画の面からも千葉県で首都圏整備法につきましては、市街化区域というものが決定されました。市街化区域が決定されましたその中の街路、用途指定それから公共下水道、義務教育の小学校そういったものが至急計画をきめなければならないというふうな都市計画の新法にも法制化されております。

館山市の場合はまだ市街化区域につきましては、県のほうにも問い合わせたのでございますが、とりあえず近郊整備地帯として今年八月に決定いたしました。その他につきましては、今のところいつ市街化区域、調整区域の決定をするか、なるだけ早くやるということを県のほうから伺っております。そしてそれまでの間は、現在きめられている用途地域の指定の区域の指定が一応市街化区域というふうな考えまして、今後の都市計画について進めていくということでございます。以上でございます。

- 一八番 (安西益男君) 県といろいろ連絡をいたしておるといふことでありますが、ただ、県の連携も大事であります、今後観光館山という面からいたしますならば、市民の生活の点から考えますと独自の計画を進めていかなければならぬ。すでに 茂原等におきましては、独自にそうした方向で進んでおり終末処理場も完成が近いというようなことも承っておるわけでございます。そういう関係からやはり積極的にそういう方向に、また問題が大きいわけでございますが、それだけに後手後手になっていきますと、その費用も相当かさんでくるという面、またこれは一朝一夕にいかないという面から長期の計画も立てていかなければならぬという面も感じられます。そういう面でもう一べん具体的なお考えがあるとするならばお聞かせ願いたいと思いますが、たとえば日本上下水道株式会社等に頼んでおる。調査計画をといふことでありますが、何年頃からのようにといふところまで考えられておられるかといふことです。なければいけないでけっこうです。

- 土木課長 (飯田治男君) とりあえず基礎調査いたしましてどのぐらいの事業費がかかるものか、そういったものも全部調査の対象になっておりますから、そういう費用が出ましたら、一応今後何年先に工事を、公共下水道の計画を立てて実施していくといふことをきめたいと思います。今のところは何年から実施するといふことは計画しておりません。
- 一八番 (安西益男君) ぜひひとつ早くそのような計画に進められるように希望するわけでございます。次に大賀の周辺のごとでございますが、これも今まで実際のおそこの状態を見ておられるかどうかという点をまづ一点お聞かせ願いたいと思います。

- 衛生課長 (牧野喜一君) 小宮味工付近における公害の関係でございますが、先ほども昭和ケミカルのところでも申し上げましたとおり、担当係はそういった付近住民の悪臭等の関係で何回も行っておりますが、私自身はきのう参りましたが、製造工程並びにかにた川の状況を見て参りました。

その状況について申し上げますと、御承知のようにあそこではラッキョウ、ショウガ、ハスの加工製造をやっております。主要薬剤といたしましては着色剤赤色一〇二号というものがございます。梅酢ということもございます。赤色一〇二号の使用量、添加量につきましては、厚生省で定めた量がそのとおり実施されていることとでございます。それから防腐剤これはどうしても保存の關係があつて使わざるを得ない。ソルビン酸カリウムこれも厚生省の指示で添加してあるということとでございます。それから作業の際出る残渣でございますが、これは除土蓋がついておまして、きのう私見たところではほとんど完全に残渣については除去されております。臭気でございますが、これは春から夏季にかけて御質問のようにならぬということとでございますが、たまたまきのうでございますまして、氣候の關係で大して悪臭というふうなものには外に出た場合もなかつたわけでございます。あつてこの汚水の問題でございますが、これは川につきましては、水質の關係は県のほうのこととございまして、市でもそういった検査機能もございませんので、市独自としてまだ水質検査も実施してありません。県のほうでもしたのかどうか問い合わせるとまがございませんので確認いたしております。ただ色につきましてはでん粉をあそこで煮る關係がございまして、紫、青のようなその影響かどうかわかりませんが、ちょっと色がついておるといふような状況でございました。

○ 一八番 (安西益男君) 昨日おいでになつたということとたいへん御苦労さまですが、いずれも質問されてからだいたい調査されておるといふこととでございますが、御承知のように時期的にあそこもそう大きな悪臭というものは確かにないと思ひます。ただ、時期によりましてあの辺は自衛隊の人たちあるいは市営住宅に住んでおられる方々百数十軒あるわけです。そうした苦情というものをしばしば聞かされておつたわけでございます。時期的の問題ということがいえると思ひます。そういうわけで今後そういう時期に至りまして、指導員なり市からそういう係ができるということとでございますので、その点防止協定ということとまでいかなないとしても指導、監督という面は重々進めていっていただきたい。このように思うわけです。

それから、今後に備えて河川の水の測定あるいは心配な企業等はそういった測定の方法、そういった装置というようなものも今後用意していかなければならぬのではないか。このように思いますが、現在までそうした市として河川の水質の検査等はどのようにやってこられたのか。また今後そういった面に対する対策としてはどんなふうに考えておるか。その点ちょっと。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) 河川水の測定機械でございますが、現在水質検査室が設置されておりまして水道水をはじめとする飲料水の検査は実施しておりますが、河川のBOD・CODそういった関係の機械がなくて実施できない現状でございます。水道の担当でございますので水道課のほうにお願いしまして、BODも検査できるような機械を備えてほしいというお願いをいたしております。聞くところによりますと、水道課のほうで来年度予算要求をいたしたということも聞いております。以上でございます。

○ 一八番 (安西益男君) 測定機械を購入の方向にということでございますので、逐次そうしたものが購入できるとしたならばやっていっていただきたい。このように思うわけでございます。

次に、船形のことにつきまして若干お尋ねしたいわけでございますが、これもやはり時期の問題でありますけれども、ほとんどの業者が汚水、煮汁を下水に流しておる。したがって、その悪臭はまことにひどいということも事実でございます。またハエ、ウジそういった環境衛生の面がすこぶる今後心配されていくんではないか。また付近住民の方々の迷惑、悩みそういった面も今後問題としていかなければならぬのではないか。そういう点につきまして、一応そうした人たちにいろいろと装置なり、改造なりというものを進めていかれるのかどうかという点を若干お答え願いたいと思います。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) お答えいたします。船形の魚加工に伴う悪臭、臭気、汚水の関係でございますが、今まで保健所と私のほうが担当係が参りました調査によりますと、船形地区にサバ節とカツオ節の製造事業所があ

る。

これは十二軒ございます。それで現在時期的に見まして、私行ってみようとしたのでありますが、今そういうサブ節等について製造しておらないということで参らなかつたわけでございますが、今後は特に御指摘のように夏季等におきましては現実には参りまして、ましてや悪臭等につきましては、県から委任された事項でもございますので、よく実情を把握した上で対策を考えて参りたい。このように考えております。

○議長（西村真次君） 念のため申し上げますが、御承知のように再質問時間申し合わせは三十分、あと三分ですから簡明にお願いします。

○一八番（安西益男君） そういうことでその改造等の相談、指導といいますが、勧告そうした点をお願いします。またそれに要する融資制度、これも各地で実施されております無利息そして長期の融資という面を考えてやればならぬではないかというふうにも感じられるわけでございます。いづれにしても先ほどお話しもありましたように悪臭、騒音、震動等の被害というものが強く出ておる観点からこういった方向につきましては、積極的な姿勢に進んでいきたい。このようなことをお願い申し上げます。

○議長（西村真次君） 以上で通告質問を終わりました。暫時休憩いたします。

午前十一時二十三分 休憩

午後一時七分 再開

○ 議長 (西村真次君) 午後出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第四、議案第七十八号昭和四十五年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十八号 昭和四十五年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

議案の内容説明

○ 人事課長 (小沢正治君) 議案第七十八号について御説明申し上げます。

本年十二月一日現在の在職職員に対します期末手当の支給に關しまして、特に特例をもって増額支給をいたしたいというものでございます。第二条から第五条まで業種別にそれぞれ規定してございますが、いわゆる常勤三役と教育長それから議会の議員の關係は、それぞれ根拠となる条例が独立して別途でございますので、その關係につきましましてはつきりと區別いたしましたものでございまして、それぞれ一般職を含めまして基本の率に對しまして百分の五十を加えまして、結果的に昨年度と同率の百分の三百十という割合で支給いたしたいというものでございます。よろしくお願いいたします。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案の通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (西村真次君) 日程第五、議案第七十九号損害賠償の額を定めることについてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十九号 損害賠償の額を定めることについて

議 案 の 内 容 説 明

○ 衛生課長 (牧野喜一君) 議案第七十九号について御説明申し上げます。

この事故は、衛生課の清掃車による交通事故にかかわる損害賠償でございます。まず事故の状況でございます。去る七月三十一日午後三時四十分頃市内湊館山大橋八幡寄り約三〇メートルの市道上におきまして、近くでごみ収集を終えた市の清掃自動車がUターンをするために道路中ほどに一たん入れて左右の確認を開始しUターンしたわけでございます。道路中央を曲り切ろうとしたとき、相手方のライトバンが市の清掃車右前方部タイヤどろよけに衝突いたしました。このために相手側ライトバン右側前方を破損いたしましたわけでございます。人体の状況につきましては、市側、相手側ともこの事故による異常はございませんので示談が成立したわけでございます。被害者のライトバンの損傷状況でございますが、右前部のフェイスター、キャブレターグリル、バンパー、ボンネットこういうものがいたみまして修繕いたしましたところ、七万九千八百円がかかることに相なつたわけでございます。私のほうの衛生課の清掃車につきましては、ほとんど全く損傷がございませんでした。というのは相手方のバンパーが清掃車の右後輪ホイールの固い部分に当たつたために全然損害がなかつたというわけでございます。したがしまして、この車の修繕費を市が払うということで示談が成立したわけでございます。相手方ライトバン修繕料七万九千八百円についてでございますが、清掃車が対物保険に加入しておりますので川崎の社団法人全国市有物件災害共済会自動車災害損害共済基金から共済金として支払い方を請求しましたところ、去る十二月三日市に納入があつたわけでございます。以上、お願いいたしたいと思います。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。— 御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

○ 「異議なし」と呼ぶ者あり

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

○ 「異議なし」と呼ぶ者あり

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第六、議案第八十号千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第八十号 千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定について

議案の内容説明

○ 人事課長 (小沢正治君) 議案第八十号について御説明申し上げます。

千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合の規約の改正でございますが、この別表と申しますのは、この資産管理組合の加入市町村の一覧表になっておるわけでございます。第一区が市全部が包括されておるわけで、第二区以下第十区までおおむね郡別単位に一覧表ができておるわけでございまして、当然ここで市町村の消滅あるいは新しく

誕生する市町村関係の発生の都度この一覧表が改正される手続になるわけでございまして、今回は本年の七月一日我孫子町が市制施行いたしましたことと、去る九月二十八日に君津町、小櫃村、上総町、小糸町、清和村が一体となりまして、新たに君津町という形で発足ということになりました関係で、この表をそれぞれここに示してございますように、市の第一区の中に我孫子市を加えまして、我孫子町が第二区にありましたので我孫子町をこの段階で削り、第八区として君津郡下の町村が掲示されてございますので、その中で消滅いたしました小櫃村、上総町、小糸町及び清和村を削りまして、君津町は町名が変わりませんでそのまま残りますので、手続はこの新たな市町村に整理するということだけの改正でございます。

それで、この規約の改正が関係市町村の議会で全部議決されましたのちに千葉県知事の許可を得て確定をするということになりますので、附則でそのようなうたい方をしておるわけでございます。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。— 御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

- 議長（西村真次君） 日程第七、議案第八十一号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

（書記朗読）

議案第八十一号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

議案の内容説明

- 市長（本間 讓君） ただいま提案いたしました委員に対しましては館石伝蔵氏が最適任者と存じまして是非皆さま方の御承認をいただきたいと存ずるわけでございます。

- 議長（西村真次君） 御質疑ございませんか。— 御質疑なしと認めます。

採 決

- 議長（西村真次君） おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- 議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第八、議案第八十二号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第八十二号 人権擁護委員候補者の推薦について

議案の内容説明

○ 市長 (本間 謙君) ただいま提案いたしました人権擁護委員の候補者といたしまして、従来からの方々四名、新たに一名を御推薦申し上げまして御了承願いたいと思いますが、まず小滝新司さん、宮崎中さん、正木積さん、小沢実さんこの四名は今までやっておられた方でございまして、再選をお願いしたいと思いますが、伊沢きよさんは今度新しく願うするわけでございますが、この方は県立大原の高等女学校を出まして、文化服装学院を卒業されまして、二中及び北条小学校のPTAの役員をやっていらっしゃる方でございまして、適任者と思ひまして御推薦申し上げます。御検討願いたいと思ひます。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) この際議事についておはかりいたします。日程第九議案第八十三号、日程第十議案第八十四号から第八十八号までの一般会計並びに特別会計補正予算は、この際一括して議題とし、これより内容説明を求めたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よってこれより第八十三号乃至第八十八号を一括して説明を求めます。なお、朗読を省略したいと思いますがこれに御異議ありませんか。御異議なしと認めます。省略と決定いたします。

議案第八十三号 昭和四十五年度館山市一般会計補正予算(第五号)

議案第八十四号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

議案第八十五号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計補正予算(第三号)

議案第八十六号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計補正予算(第二号)

議案第八十七号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計補正予算(第一号)

議案第八十八号 昭和四十五年度館山市ユースホテル特別会計補正予算(第一号)

議案の内容説明

○ 財政課長 (長谷川広治君) 議案第八十三号四十五年度一般会計補正予算の第五号について御説明を申し上げます。

今回の補正におきましては、第一条にお示しをいたしました歳入歳出予算に追加をいたしますものと、第二条にお示しをいたしております債務負担行為の追加補正、第三条にお示しをいたしております地方債の起債関係の三点でございます。

歳入歳出予算に対しましては、歳入歳出にそれぞれ八千八百七十一万八千円を追加をいたしまして、歳入歳出それぞれ十九億三千二百四万一千円というふうな補正をいたしたものでございます。歳入歳出の補正につきましてはページ二ページから五ページまでに掲げてございますが、詳細の説明は明細書一〇ページでございますが御説明を申し上げます。

債務負担行為の補正につきましては、ページ六ページでございます。今回二件を補正追加をいたしたいというふうに存じて計上してございますが、事項といたしましたは、市庁舎の増築工事委託金として一件、電算機の借り上げ料として一件でございます。新庁舎の増築に関しましては、現在の庁舎が非常に手狭となって大会議室等を一時使用しておるわけでございますが、どうしても増築ということではいろいろ考えまして、やむを得ないということから四十六年度から五十年年度までの五カ年以内におきまして委託金として支払うということで工事費六千二百五万六千円とこの工事に関連いたします経費を五カ年以内に支払うということで債務負担行為として行ないたいというふうに考えております。新庁舎の増築関係でございますが、現在の規模としては三階建て、延坪にいたしまして七三七・四四[㎡]、坪数になおしますと約二百二十三坪強でございます。建坪は約八十六坪でございます。本体工事、電気その前設計、地質調査そういうものを含めましての総額でございます。

電算機の借り上げにつきましては、四十五年度から五十年年度まで借り上げて借り上げ料を支払うということでございます。これはのちほど人事課長から細かく申し上げます。購入ということではなく借用ということになりますので、その限度額を五十年年度まで千七百五十七万六千円というふうに予定をして今回債務負担行為をお願いをいたしたいというものでございます。

地方債におきましては歳入の説明で細かく御説明を申し上げます。以下歳出についてそれぞれ主管課長から御説明を申し上げます。歳出は一九ページでございます。財政課所管のものを御説明申し上げます。

一九ページの総務費関係で五目の財産管理費として今回備品購入費として六万六千円を計上いたしました。これは消防署からの指示で消火器の新規購入をしてもらいたいということでそれぞれ指示がありましたので、その購入費を六万六千円計上いたしました。その財源として工事請負費これは庁舎内の敷地の舗装工事を予定したのでございますが、ごらんとおり庁舎入口に北条小学校関係の交通関係から歩道橋ということになりまして、あの部分を

お貸したわけでございますが、まだ工事が完了いたしませんので、工事未了ということになっております。(三六)
その中から六万六千円の減額補正してこの財源としたわけでございます。

○ 人事課長 (小沢正治君) 三九ページから四〇ページにわたっておりますが、補正予算給与費明細書でございます。ただいま議決をいただきました十二月期の期末手当の条例に基づきます支給と、さらに一般職につきましては勤勉手当の關係がございませぬ。これも条例に基づきまして支給いたします。つきまして、十二月支給に際しましてこのようにそれぞれの各科目で補正追加をお願いしたいわけでございます。

それから、左のほうの欄に報酬という欄がございませぬ。これは九月の定例会におきまして非常勤特別職の各種委員の方々の報酬の引き上げの議決をいただきました關係から四十五年度後半の半期分それぞれ増額されました報酬によって支払いがなされるわけでございますので、この關係の報酬の増額分の追加をお願いしてあるわけでございます。報酬につきましては、各科目ごとにそれぞれ主管課長から説明をしていただくこととなります。

職員手当につきましては、それぞれこの一覧表へ掲げてございませぬ額の追加をお願いするわけでございますが、内容といたしましては各項目別の付記欄で計がしてございませぬけれども、その集計といたしまして期末手当千七百六十三万、勤勉手当三十三万六千円、時間外勤務手当十万円という内訳でございませぬ。その合計が職員手当といたしまして今回追加をお願いいたします額が千八百六万六千円でございませぬ。報酬で追加されます合計が百五十三万七千円合わせまして千九百六十万三千円の追加となるわけでございませぬ。したがしまして、補正前の額が報酬におきまして二千九百五十一万七千円、今後の追加と合わせまして三千百五十四万四千円という額となります。給料が補正がございませぬのでそのままでございますが、職員手当が補正の結果一億七千二百七十一万五千円となりまして、報酬、給料、職員手当の計といたしまして、補正後の額が四億九千三百九十九万八千円となりまして、共済費の三千二十七万五千円を加えましてこの表で現われます人件費の総額が五億二千三百四十七万四千円となるわけでござい

ます。

今回の補正にあたりましては、すでに新聞等で発表されておりますので御了承のことと存じますが、国家公務員の給与改訂が五月一日にさかのぼって実施される予定でございます。その関係から一応国家公務員の給与に関する法律の改正が行なわれますと、当然地方公務員もこれに準じて給与改訂を行なうようにという内示がございまして一月にその説明会を持つという連絡が県から参っております。その関係がございましてなお給料、その他でかなり大幅の給与改訂が行なわれる予定でございますので、今回の補正につきましては、それに関しましての措置は全くいたしませんで、単に報酬とそれから期末手当の各科目別に不足する額の追加だけにとどめてございます。その意味をお含みいただきまして御審議をお願いいたしたいわけでございます。

次に、電算機の借り上げ料の関係でございますが、四二ページ電算機の借り上げ料といたしまして、一応四十五年度といたしましては四十六年一月から三月までの三カ月間を四十五年度で支払うことになるわけでございます。契約の内容といたしましては、四十六年の一月から昭和五十年十二月三十一日までということになるわけでございます。したがって四十五年度が三カ月間、四十六、七、四十八、四十九の四カ年が十二カ月分、五十年が九カ月分ということになるわけでございます。この各年度別の賃借料がいろいろ単価が違っておるわけでございます。四十五年度の八十八万五千円という三カ月分と、四十六年度から四十九年度にわたる四カ年間の一カ月当たりの単価と昭和五十年度の九カ月分の単価が、それぞれ一カ月単価に換算いたしますと差があるわけでございます。

現在の電算機の貸し出しのシステムといたしまして、貸し出しを行なう会社側で金利と手数料、その他の事情を勘案いたしましたして、独自の定額設定でございます。しかも五カ年間という契約も一方的に、これはリースと呼んでおりますが、リース会社の方針に基づいてそれによらなければいけないということになるわけでございますので、買い取りで行ないますと大体千二百三十万前後の機械でございますが、いろいろこれを検討いたしましたんですが

今ここで千二百三十万前後の機械を買い取りで行なうのと、このような形でリースで実施する関係の損得計算とい
いますか、そういう関係の検討をいたしましたのでありますが、現在の電算機の開発、発展状況そうしたものがまず考
えられますし、五ヶ年間この機械で果して持つかどうか、三年後にさらにどのような新しい開発された高性能の機
械が現われるとも限らない。そういうような問題もございまして、一応当初としてはこの小型機で五ヶ年間の賃借
契約にいたしておきまして、その途中での高性能な機種への切りかえを計画するという方針で進みたい。そういう
関係から買い取りでなくて一応この機種を五ヶ年契約でリース会社の設定されます額で賃借契約でいきたいとい
うことでございます。結果的には買い取りに對しまして、五ヶ年間このまま借りたといたしまして、約金利的に四割
を払う結果になるわけでございますが、その間におきまして一応私どもの計画といたしましては、三年乃至四年目
に新しいさらに高性能な機種への切りかえといえますか、ステップアップを計画いたしたいというふうに考えてお
る次第でございます。

次に、人事課独自の関係といたしまして、第二款総務費の総務管理費の一般管理費の報酬二万四千円の追加をお
願いするわけでございますが、これは特別職報酬等審議会委員報酬でございます。これは九月に日額報酬千円を千
五百円に引き上げが決議されました関係で、定数は十人でございます。先ほど申し上げましたように、一般職の給
与改訂が相当大幅に行なわれます関係上、昭和四十六年度の特別職報酬等に関しましてこの審議会の招集が予定さ
れますので、十人の二日分を計上したわけでございます。予算残が六千円ございますので、不足分二万四千円の追
加をお願いしたいわけでございます。以上でございます。

○ 秘書課長 (太田博雄君) 一九ページ総務費二目文書広報費について御説明申し上げます。

今回三十六万五千円の補正をお願いいたしました。内訳といたしましては、十二月十五日号から三月一ばいまで
の不足分三十五万円と、広報の写真のネガ保存用のアルバム代五千円をお願いいたしました次第でございます。

一二目の結婚相談費におきまして当初計上いたしました農漁業後継者結婚奨励金四十万円のうち二十万円を減額補正いたしました次第でございます。なお、きょう現在までの状況といたしましては、農業関係といたしまして七組で七万円、漁業関係は三組で三万円、計十万円を支出しておるわけでございます。

次に、十四目諸費中八節報償費の法律相談に要します弁護士謝礼ですが、私のほうで当初計画いたしました回数が弁護士都合で開催することができなかったために四万円の減額補正をお願いいたしました次第でございます。以上でございます。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 一九ページ交通安全対策費について御説明申し上げます。まず報酬でございますが、九月一日からの委員報酬の改訂によりまして、交通対策審議委員報酬八千円の不足を生ずるということで今回追加計上したわけでございます。

次に、十八節の備品購入費でございますが、二万七千円の追加をお願いしたわけでございますが、これは婦人交通指導員に貸与いたしますための被服の購入費でございます。新たにブーツ五分分これは長靴でございます。スラックス五着分の購入費といたしまして追加をお願いしたわけでございます。

次に、三一ページ七款の商工費でございます。今回の追加額は六十七万八千円でございますが、うち一目の商工総務費におきまして第一節の報酬でございますが、これにつきましては中小企業資金融資運営委員会委員報酬といたしまして三万九千円の不足額を生ずるということで今回追加計上したわけでございます。

それから、商工振興費の三十五万円の追加でございますが、これは千葉県中小企業会館建設費補助金でございます。そして、県下の中小企業の指導センターといたしまして、千葉市の千葉港に建設されたわけでございます。去る三月の末に竣工したわけでございますが、県の中小企業団体中央会あるいは千葉県商工会議所連合会等十三団体が入館いたしましたのでございまして、その建設費につきまして補助金として県下の市町村に支出方要請がございまして、今

回予算に計上させていただいたわけでございます。

第三目の観光費でございますが、今回追加いたします経費といたしまして、まず賃金でございます。海岸清掃人夫賃金といたしまして十万二千円を計上させていただいたわけでございますが、今後三月末までの間、海岸の清掃に要する清掃人夫の延べ八十五人分の雇い上げ賃金でございます。つとめてシーズンオフにおきましても海岸線の美化につとめたいわけで今回予算の追加をさせていただきたいわけでございます。

十五節の工事請負費一万五千円、十八節の備品購入費二十四万三千円を追加いたしましたわけでございますが、これとともに北条海岸のグリーンベルトの散水用水給水施設の工事費と井戸のモーターの購入費として計上させていただいたわけでございます。現在海岸のヤシの生育をよくするために、潮風によりまして葉が枯れるというケースがございます。潮風によって付着した塩分を水によって洗い落とすということで散水装置をするために配管工事といたしまして十三万一千円、なお自家水道用のポンプの購入費総額二十四万三千円を計上したわけでございます。

次に、更正いたします十一節の需用費につきましては、印刷費において十万円、修繕料におきましては十五万円でございますが、減額更正をお願いするものでございますが、印刷費は観光パンフレットの印刷代が当初見込みましたより安くでき上がったということで、予算の残が生じますので補正いたします。夏季におきます休憩所あるいはシャワーの修理が当初見込んだより安く済んだということで修繕費として十五万円の更正をお願いしたわけでございます。

それから、十二節の役務費におきましても広告料等で五万円程度の不用を生ずる見込みでございますので、減額更正をしようとするものでございます。

十三節の委託料の十六万円の減額につきましても、海水浴場の監視船を当初六隻配置するよう予定したわけでございまして、その後予定した船頭がなくなった関係上、五隻でシーズン中監視船を使用したので十六万円の予算残

を生じたために更正をお願いしたわけでございます。以上でございます。

○ 調査課長 (越路良夫君) 引き続きまして調査課所管の予算につきまして御説明申し上げます。

二〇ページ二項徴税費一目税務総務費百一十七千円を追加補正しようとするものでございます。九節旅費におきまして五万円程度これは来年三月までに予定される出張等を検討いたしましたところ、この程度の残が見込まれますので、この際減額したいと思っております。したがって、減額後の予算現額は二十二万八千円と相なります。

それから、十一節需用費におきまして三十九万二千円追加するものでございますが、これは固定資産税、都市計画税及び軽自動車税の納入通知に関する用紙の印刷費でありまして、四十六年度からは電算機を使いますのでその用紙の印刷費を計上したわけでございます。

十四節の使用料、賃借料五千円につきましては、市民税の申告会場の借り上げ料でございます。これは市民税の申告にあたりまして住民の便宜をはかるために現在三十九カ所の申告会場を予定しておりますのでありますが、このうち集会所あるいは社務所等十三カ所に対する借料を支出するために計上したのでございます。以上でございます。

○ 選挙管理委員会書記長 (高山隆男君) 二一ページの四項選挙費について説明させていただきます。

一目の選挙管理委員会費一報酬につきましては、来年三月までの選挙管理委員会の委員報酬が引き上げになった関係で三万八千円の補正をお願いしたいというわけでございます。

四目の県知事選挙及び県議会議員選挙費でございますが、一応県知事の選挙の投票日は御承知のように四月十一日が現在予定されているところでございます。県議会議員も同時に行なわれるということでございます。なお、選挙の告示につきましては、県知事選挙につきましては四十六年三月十七日、県議会議員選挙につきましては四十六年三月三十一日に告示の予定でございます。四十五年と四十六年に選挙費の執行があるわけでございますが、今回九十万円の補正予算をお願いしたいと思うわけでございます。なお、この金は県の委託選挙でございますので、県委

託金をもって支出に充てるわけでございます。

三節の職員手当時間外勤務手当を十万円、賃金二十七万五千円これは選挙告示になりますと、正規職員のほかに臨時職員を三名乃至五名ぐらい補助にお願いしたいと思っておりますのでございます。

九節旅費につきましては、選挙執行関係の出県の旅費でございます。

需用費のうち一番大きなものは、消耗器材費で三十一万二百円お願いしてございますが、これは御承知のように県知事選挙はポスターを公営で氏名掲示いたします。これは市内百五十カ所でございます。大体氏名掲示の掲示板が一枚千四百円を予定してございます。予備をみまして百五十二個分、県議会議員選挙につきましては、やはり県の指令でポスター掲示場をつくるようになっております。場所が三十カ所でございます。このほうの経費が大体氏名掲示板が千二百円予定しておりまして三十二枚、ポスター掲示用の材料でもって三十一万程度かかるのではなからうかということをお願いする次第でございます。

十二役務費は郵便料でございます。十四使用料及び賃借料は建物借り上げ料、これは個人演説会が公営施設を使われるかもしれないということでその場合の費用に一万八千円、自動車借り上げ料五千円、それから十五工事請負費先ほど申しました県知事選挙と県議会議員選挙のポスター掲示場の架設と取りこわしの工事を工事請負費で十二万円お願いしたい。よろしく御審議願います。

○ 福祉事務所長（斎藤武男君） 二二ページ三款民生費につきまして御説明申し上げます。

十二節の役務費でございますが、四万八千円の通信運搬費郵便料でございます。今年が高令者医療給付の関係やら児童手当の措置というものが非常に多かったです。不足を生じましたので今回お願いしたわけでございます。

十九節の負担金補助及び交付金でございますが、百六十八万四千円の減額でございます。内訳は負担金におきま

して十二万六千円これは心身障害者の扶養年金の納付負担金でございます。国の制度で実施しておるものとございますけれども、当初千五百円の保険料一本立てのものであったわけでございますが、年金加入者の年令別によります掛金が改正されまして、三十五歳未満が千円、三十五歳から四十五歳までが千三百円、四十五歳以上が千五百円の三本立てになりました、その平均額が下ったこととさらに実際に掛けておられる方が五十人ということでございます。この制度は重度の心身障害者三級までの者が加入できるというものでございまして、保護者が死亡した場合に残された障害者の方に月二万円の年金がさがるというものでございます。補助金四万九千五百円老人クラブの關係でございます。当初九十クラブであったわけでございますが、その後九十四クラブになりました月千五百円の割で四万九千五百円の増額をお願いするわけでございます。交付金百六万七千五百円の減額でございますが、これは満八十六歳以上市の養老年金条例によりまして千五百円を支給しておるわけでございますが、当初二百八十名を対象にしたわけでございますが、その後死亡等がございまして二百二十四名、人員の減少によるものでございます。児童手当交付金の百六万三千円でございますけれども、これは市の条例によりまして第四子以上を対象にするわけでございますが、当初二百八十名を出産状況平均をみまして計上したわけでございます。それがこの補正の時点で百六十七名ということでございます。そういうことで三月までを見込みましたも、この程度減額ということでお願いしたわけでございます。次の交通遺児手当の交付金の六万八千円の減額でございますが、これも当初十名を見込んでございますが、やはり申請主義でございまして、現在三名、月千円ということで支給しておるわけでございますが、これもこのようなことで減額補正をお願いするものでございます。次の生活保護世帯の歳末の見舞金でございますが、これは例年実施しておるものでございまして、十二月現在二百七十五世帯に対しまして五百円の市の助成をしたい。歳末助合い運動を実施しておるわけでございますが、さらにこれにうわのせしていきたいということでは十三万七千五百円の補正をお願いするものでございます。

二十節の扶助費の關係でございますが、老人ホーム収容措置扶助費としまして百三十万三千二百九十二円の追加をお願いするわけでございます。これは現在三十五名の市内在住の方が老人ホームに収容されておるわけでございます。当初一人一万八千八十円というような国の委託基準であつたわけでございますが、ベースの改定がされてこれに二万六千六百十三円ということでございます。十分の八国が負担するものでございますが、今回の不足分を追加お願いするものでございます。

次の高令者医療給付金の四百七十八万一千二百円の追加でございますが、これも今年七十五歳以上千九百七十五名に對しまして、四百七十二万六千八百円の積算でお願いしたわけでございますが、十一月現在で二千二百四十件の利用状況でございます。それで十一月現在で四百六十五万五千三百七十円ということで一人平均六千九百七十円というような状況でございます。このような状況で月約七十万の支出が見込まれておるわけでございます。こういったやはり三月までの不足分の追加をお願いするものでございます。

身体障害者補装具の扶助費でございますが、これが今年二十九件ございまして、補装具の単価の増額でございます。まして、予算不足を生じたので追加をお願いするわけでございます。身体障害者施設収容援護扶助費の七万でございますが、これも十分の八国が負担するわけでございますが、現在長生郡のベネスタホームそれから鶴舞のあと保護に一名、同様基準額のアップによるものでございます。

次の精薄者の職親委託扶助費の三万六千円の減額でございますが、これは当初二名予定しておつたわけでございます。結果的には一名ということで一日百円の割でお願いしておるものでございまして三万六千円ということでございます。次の精薄者施設収容援護扶助費の三十万六千円でございますが、袖ヶ浦の福祉センターに一名収容しておるわけでございますが、これも当初二名を予定したわけでございますが、結果的には一名ということで

ございます。その減とさらに基準額アップによります差の補正減でございます。

次の二十一節貸付金の十万八千円でございますが、これは現在二十三名に奨学資金を貸しておるわけでございますが、当初の見込みでは十名、昨年が十四名であったわけでございますが、そのうち本年一名卒業しまして二十三名というわけでございます。当初十名と積算してあったわけでございますが、選考委員会の結果十三名というところでございますので、その不足分をお願いするものでございます。

二十五積立金の十四万七千円でございますが、これは積立金の利子と、それから本年卒業しました者がすでに元金償還しておりますのでその額を計上したわけでございます。

次の十一節需用費二十万六千円の減額でございますが、十月より三月までの六カ月分としまして五十一万二千五十円を当初計上したわけでございますけれども、実際に運営いたしました結果、相当の余熱が利用できるというところで再計算の結果このような減額をお願いしたわけでございます。なお、利用状況は十月、十一月合わせまして五千九百五十一名となっておるわけでございます。次の食料費四万円の減額でございますが、本年十月十四日オープンいたしましたので、そのときの食料費を節約いたしましたして減額をいたしましたものでございます。

二十四節投資及び出資金の十万円の減額老人福祉センターの施設が社会福祉施設ということで電話債券が免除されたわけでございます。

二項の児童福祉の関係でございますが、報酬で十二万、これは先ほどお話しがございましたように九月議会で報酬がアップされたものでございます。家庭児童相談室の二名分でございます。九節の旅費の四万の減額でございますが、児童福祉関係の総務費の中の旅費がこのようなことで余りましたのでここで減額をお願いするものでございます。

十一節の需用費の四万円でございますが現在八カ所の児童遊園地がございます。早い施設では三十九年頃から

のものがございまして、相当いたんでおるわけでございますが、当初六万五千円をお願いしたわけでございますけれども、さらにすべり台でありますとか、そういうものの破損それからペンキ代というようなもので四万円の追加をお願いするものでございます。

十五節の工事請負費の關係でございますが、五十六万円の減額をお願いしてございます。本年五カ所の青年館の新築とさらに増改築一カ所を計画したわけでございますけれども、今年は県の段階におきまして青年館の新築が殺到したということで一部改築のワクが取れませんでした。このために一部改築の補正をお願いするものでございます。

次の二目の児童措置費の關係の十三節委託料三百九十五万二千円でございますが、児童福祉法第五十一条によります措置委託料でございます。これは人事院勧告によります八%の給与のアップということで保育単価が上りましたので、このような積算をいたしましてお願いするものでございます。国が十分の八、県と市がそれぞれ十分の一というものでございます。

次の報酬二万五千円でございますが、公立四園の保育園關係の嘱託医關係のものでございます。十一節需用費でございますが、これは公立四園の關係のものでございます。同様人件費アップによります教材費の保育単価の増加によります必要経費でございます。十二節の役務費でございますが、公立四園の電話料の不足額でございます。それと火災保険料の一万五百二十二円でございますが、これは今年新築されました純真保育園のホールが火災保険に加入しておりませんでしたので、ここに一万五百二十二円の追加をお願いするものでございます。

三項生活保護費關係でございますが、一節報酬これは生活保護の医療關係の審査、判定をお願いしてございます嘱託医に対しますものでございます。十一節の需用費バイク等の燃料費が不足いたしましたので一万円お願いいたしました。それから十二節役務費の二万八千円郵便料でございます。

二目の扶助費の關係でございますが、ここで千五百八十七円の追加をお願いしてございます。生活扶助費におきまして百四十五万四千円でございます。これは生活扶助の關係が現在実人員五百名に対するものでございます。当初七%のアップを見込んだわけでございますが、実際には一二%のアップということでございましてこの増額分をお願いしたわけでございます。十分の八が国の補助でございます。医療費關係につきましては、三百二十五名を当初見込んだわけでございますが、それが実際には三百三十四名、人員の増と医療費一人当たりの単価が一万八千円の見込みが二万一千九十六円ということで一人当たりの医療費がふえたための不足額でございます。以上でございます。

○ 議長（西村真次君） 暫時休憩いたします。

午後二時二十分 休 憩

午後三時 一分 再 開

○ 議長（西村真次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○ 衛生課長（牧野喜一君） 二五ページ四款衛生費の衛生課關係の補正予算につきまして御説明申し上げます。

まず一目の保健衛生総務費でございますが、火葬場關係でございまして七節の減額十万円、これは火葬場の火葬夫の休みを友引の日を休みといたしました關係で二万円あれば足りるということで十万円を減額をお願いしたわけでございます。

次に、十五節の工事請負費でございますが、これも十万円減額をお願いいたしました。これは新しく重油タンク、これに付随する配管工事を実施する予定で予算に計上したわけでございますが、たまたま重油タンクが故障いたし

まして、その際修繕で重油タンクの圧力調整、バーナーの修理、調整、配管等をなおしまして一万五千円ぐらいで
あがりましてので、その残十万円を減額するわけでございます。修繕料でまかなわれたために十万円減額するわけ
でございます。

次の十八節備品購入費二万四千円減額いたします。と申しますのは、骨あげ台を十万円で購入予定でございまし
たが、業者にあたりましたところ大体七万五千円程度で購入できるというので二万四千円余りましたので減額いた
すわけでございます。

次の三目の環境衛生費でございますが、賃金で一万一千円減、これは潮入川の塩素滅菌装置の管理人の賃金で
ございますが、すでに仕事も終りましたので二万円余りましたのでそのうち一万一千円減額ということでございます。九
節の旅費でございますが、一万一千円補正増をお願いするわけでございます。これは普通旅費が市内、市外とも不
足をきたしましたので一万一千円増をお願いいたしました。次の十一節三十万の減でございますが、これは燃料費
二万円、医薬材料費二十八万円減額しようとするものでございます。まず燃料費でございますが、自動車燃料費で
残金一万五千五百円ぐらい見込まれる。二番目に機械燃料費これは機械の操作がだいぶなれて参りましたので残が
四千五百円見込まれる。計二万円減額するわけでございます。次の二十八万円の薬剤費でございますが、乳剤と油
剤の關係で年度間の実績を見込みますと、油剤については年間百六十三かん、乳剤については百四十七かんあれば
足りるというようにみております。予算に計上する際の額から契約をいたします際に値引きになりましたその差額
が二十八万程度、最初見込みのときに百七十三万五千四百五十円、これが契約によりまして油剤につきましては二
千三百五十円が千八百八十円、乳剤につきましては九千二百円が七千七百六十円、その使用額を掛けました数字が
三十万六千四百四十円、百十四万七千二百二十円、この差額が二十八万八千二百九十円ということで二十八万円の減額
をしたわけでございます。

次に、二項の清掃費でございますが、二目のじんかい処理費でございます。七節の清掃作業員の賃金の四百九十六万一千円の増でございます。これは不燃性のごみの収集のために二人、環境監視のために二人、それから施設の技術管理のために二人、西長田の埋め立て管理作業のために二人を年度途中から臨時として採用いたしました関係でこれだけの不足を生じたわけでございます。九節の旅費でございますが三万四千元、これは普通旅費でこれだけ余るわけでございます。十一の需用費でございます。二十万円減でございます。これは庁用消耗品費でこれだけ余るわけでございます。自動車のタイヤ、ショベルの前輪タイヤ、バッテリー、ハイドリック、薬剤購入費等々全部合計いたしましたし余ると見込まれるのが合計二十万円で減額をお願いしたわけでございます。次の十二節の役務費でございます。減額十二万円、自動車の損害保険料これは三台新しい車を買いましたことと、ボデーの改造を二台いたしましたところ、その際保険料を業者のほうで持ってくれたということで十万円浮きました。燃料費については二万円余るということで合計十二万円の減額をするわけでございます。次が十四の使用料及び賃借料でございますが、十二万四千元補正増をお願いするわけでございます。これは自動車等の借り上げ料でございます。ごみ処理のためタンク、ブル借り上げ料、回送料これを含めまして十二万四千元かかりますので補正をお願いしたわけでございます。十五節の工事請負費でございますが、正木の衛生処理場の工事請負費の契約による残が三万円ございますので減額補正ということになつたわけでございます。二十二の補償補てん及び賠償金でございますが、先ほどの七十九号議案のとおり七万九千八百円を支払うための予算措置でございます。

次はし尿処理費でございます。十一節の需用費を十八万円減額しようとするものでございます。この内訳でございますが、し尿処理場の消化促進剤を年間百三十二万見込みましたところ実際に使用いたすと百十八万四千元程度でまかなわれるということで十八万浮きましたので減額するものでございます。次に十二節役務費通信運搬費電話料でございます。それと手数料両方合計いたしまして四万円余る見込みでございますので、減額をお願いするわけ

でございます。説明終ります。

○ 保健課長 (網島憲治君) 二五ページ二目の予防費でございますが、旅費三万円の追加をお願いしたいと思います。年度間この程度不足見込みでございます。十一節三万円減でございますが、すでに接種も終了しまして日腦のワクチン代がこの程度残が生ずる見込みでございます。以上でございます。

○ 農産課長 (石井 謙君) 二七ページの農産総務費から御説明申し上げます。四十三万五千円の追加をお願いいたします。内容につきましては、人件費が主でございますので説明欄によって御了解いただきたいと思います。

三の農産振興費でございますが、二百五十七万七千円の追加をお願いいたしたいわけでございますが、おもなものを申し上げますと、二八ページ十五節の工事請負費二百三十五万、十八節備品購入費十五万合わせて二百五十万でございますが、これは豊房地区の農村協同館の設置でございます。地元から非常に強い要望がございましたので決定機関といろいろ話し合いをいたしまして、その結果、このほど助成の内示を受けたわけでございますが、設置予定の場所は作名の森の越という字でございますが、現在そこに集会所が建ててございますが、これが非常に老朽化しております。雨漏り等があるということで今回協同館に切りかえたいということでございます。建物の内容を申し上げますと、木造平屋建てかわらぶきで約二十二坪で、この事業費が二百三十五万円、備品といたしまして黒板とか机、椅子を合わせまして十五万円、この二百五十万円の分担割合を申し上げますと、県の補助金百万円、地元寄付金が百万円、市の負担金が五十万こういうことでございます。

次に、十九負担金補助及び交付金の欄の野菜振興産地育成事業補助金でございますが、これは三十三万一千円の追加をお願いいたしたいわけでございますが、これは市の特産物でございますイチゴの優良の育苗をつくろうということで本年計画したわけでございますが、たまたま年度の間検査が行なわれた際に県の係官が参りまして、事業費に対する追加を承認いただきまして、最近指令が参ったわけでございますので、市並びに県におきまして事業費の

半額三十三万一千円を追加お願ひしたいということでございます。

次に、畜産業費につきまして三百八十三万五千円でございますが、この内容はたくさんここに書いてございますが、総合的に申し上げますと、当初予算のときにおきまして入牧、牛を入れるような計画がまだなかったわけでございますが、その後入牧するような計画にかえたためにここにございます工事の請負費あるいは備品の購入費がどうしても必要なためにこれを県あるいは国に対してお願ひいたしましたところ、最近助成対象になるというような内示をいただきましたので追加でお願い申し上げます。

おもな工事の関係を申し上げますとサイロとか、堆肥舎、牛をはかるはかりとか、センター内の整備事業こういうようなものでございます。備品購入費につきましては、大型の機械でございますが、おもな増額分につきましては当初考えておりましたトラクターでございます。当初百五十万程度の一般のトラクター乗用型でございますが、たまたま実演会をいたしましたところ、非常に勾配等があるために四輪駆動、四つの輪に馬力のある四輪駆動でなければちょっと無理ではないかということで、県係官立ち会いのもとで実演会をいたしまして助成の対象になるというようなことで増額されたわけでございます。なお、その中で役務費五十三万、二十四の投資及び出資金の十三万、これは牧場に本年電話を架設する予定でございましたが、電報電話局等といろいろ折衝いたしました、本年は無理だろう。こういうことでございますので減額させていただきました。

次に、農地費六百四十万の追加をお願ひしたいわけでございますが、工事請負費の六百万でございますが、山本の中入という部落から県の暖地園芸試験場に参ります間の舗装工事でございますが、総延長八四〇メートル、幅員五メートルでございます。

次に、材料費でございますが、四十万を追加いたしましたしまして船形ほか十二カ所の用水路の補修工事とか、あるいは頭首工の工事とかいうようなものを行ないたいということでございます。以上でございます。

○ 水産課長 (谷貝茂生君) 三〇ページ三項の水産業費につきまして御説明申し上げます。

まず九節の旅費でございますが、三月末までの旅費の予算不足が見込まれますので二万五千元お願いします。十九節の負担金でございますが、まず千葉県南部水産増殖事業推進協議会負担金一万円、これは鋸南町から御宿までに至る十二市町村と、それから三十の漁協で結成されました増殖事業につきまして県等からの補助を増額してもらう運動機関として設置されました、千倉の町長が現在代表者になっておりますが、昨年の末に発足したわけでございますが、これに加入いたしましたのでこの負担金として一万円お願いするものでございます。この機関としましては、今まで県に向けて増額運動をやって参りましたが、その次に掲げてもございしますが、構造改善事業は今回その増額分もこの運動のために結果が現われておりますので、お願いするものでございます。沿岸漁業構造改善対策事業の補助金でございますが、六十二万二千元の追加をお願いしようとするものでございます。当初の事業費といたしましては百五十万円予定しておりましたが、今回二百二十一万八千円ということで七十一万円ばかり総事業費の増がありましたので、県の補助に伴いました市でも十分の一だけをお願いしまして六十二万二千元お願いしたいということでございます。千葉県水産業近代化施設設置事業の補助金でございますがこれは船形漁協におきまして給油船を建造することになりまして、三・七二トンの船でございますが、ヤンマー三十五馬力の船でございます。県から百十萬補助がくるところでございますので、四百万かかりますので市におきまして一割程度四十万をこれに加えて補助したいということで県の百二十万、市の四十万で百六十万補助したいということでございます。それから節類の共販促進事業補助金十三万でございますが、これは共販に出されます数量に応じまして県におきまして取り扱いの一%程度の補助金が出るということでございますので、市におきまして〇・三%程度のものを加えて補助したいということで県の十万に対して市で二万円加えるということで十三万計上したわけでございます。次の漁協合併促進協議会の補助金でございますが、これは西岬地区の漁協の合併を推進して参りましたが、よう

やく話し合いがつきまして一応きたる一月一日を期して事務的手続を進めておるわけでございますが、今まで相
当の経費もかかっておりまして、はっきりと合併の見通しもつきましたので今までの経費を漁協でも負担してお
りますので、今後の費用もかかりますので、一応二十万程度の補助を協議会に出してこの地区の合併の費用に充
当したいということでございます。それから水産振興奨励金の二十六万円でございますが、規定によりまして大
体今年度の支出予定されまゝのが漁船のほうは十二はい、巻き上げ機が十六、通信が十二個、魚探が五件、規定
によりまして不足の見込まれます分として二十六万円お願いしようとするものでございます。

それから、漁港建設費でございますが、まず十九節の負担金補助及び交付金船形漁港の改修工事の負担金で
ございますが、臨港道路の三八七メートル一応計画いたしました、工事の結果、予算減が確定いたしましたので
百三十万の減額補正をお願いしようとするものでございます。富崎漁港の改修工事でございますが、マイナス二
・五メートルにしゅんせつする工事でございます。これは県から今回はっきりと減額の指示がございましたの
で、これも減額補正をお願いするわけでございます。船形漁協の整備工事の負担金でございますが、これは物場
げ場と荷さばき場の舗装工事でございます。これも今回県の指示によりまして減額補正をお願いするものでござ
います。なお、富崎漁港の整備工事防波堤の根固め工事でございますが、これも県が漁港の管理者として今回
減額の指示がございましたので、予算に応じて減額補正をお願いしようとするものでございます。以上。

○ 土木課長 (飯田治男君) 三二ページ二項道路橋梁費二目道路維持費の工事請負費百万円の追加補正でござ
います。当初予算に不足を生じたので、追加補正をお願いするわけでございます。これは市内の側溝整備、
道路維持、道路整備等の工事請負費でございます。よろしくお願いいたします。

○ 建築課長 (池田春雄君) 住宅建設費について申し上げます。二百十四万の補正をお願いしたいのであります
が、国庫補助金が三十九万八千円の補助がありますので、市費特ち出しが百七十四万二千元になります。補正の内

訳はさく井をしますのに約六〇メートル、ポンプをすえて住宅に供給する。住宅の汚水そういうものの排水が滝川の新橋というところまで約八二四メートル配管してそこまで流さなければならぬ汚水配管工事、電気工事等でございます。以上でございます。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) 三三ページ消防費一目の常備消防費のうち九節の旅費いたしましたして八万五千円の追加補正をお願いする次第でございます。これは最近危険物関係の検査のための出張等ございまして、年度末までに不足が見込まれますのでお願いするわけでございます。

二目の非常備消防費といたしまして、十一節需用費中八万五千円の減額でございますが、年度末に剰余が見込まますのでここにお願する次第でございます。よろしく。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) 三三ページの十款の教育費について御説明申し上げます。

十款教育費中の報償費であります。これは去る九月市会で議決のありました特別職の報酬に關します条例改正に基づいて再計算しまして三月末までの不足分を計上をしたものでございますので、以下人件費とともに省略させていただきます。

十九節の負担金補助及び交付金で四万円計上いたしました。これは安房郡市町村教育委員会連絡協議会負担金の今年度の不足分でございます。当初予算におきまして二十九万三千円計上してございますので、合わせまして三十三万三千円になります。

次に、二項の事務局費におきまして、十九節の負担金補助及び交付金で一千三百三十五万七千円計上いたしました。これは給食組合の分担金の不足分でございます。当初予算におきまして暫定的に二千五百万計上してありますので、合わせまして分担金として三千八百三十五万七千円となります。この分担金の割合は児童生徒割りということになっておりますが、今年度の館山市の負担割合は総額の八二・六六%こういったことになっております。

次に、二項の小学校校費におきまして十一節需用費で五十一万五千円追加計上しましたが、これは北条小学校におきまして電気料、水道料の三月末までの不足見込み分でございます。大体今までの実績をみますと、電気料は従来の三・五倍、水道料が大体六倍近くかかっております。この電気料の増加分は教育機器それから用水の吸い上げ、水を屋上に上げるためのモーター関係の使用料、水道料にありましては便所の水洗関係が大きく作用しているわけでございます。

次に、十五節の工事請負費で十万円計上いたしましたのが、これは那古の小学校でプールをつくりますにあたりまして、遊具を一時取りはずしてありまして、それを多少修理を加えましてもとのところにすえつきますに要します工事費でございます。

十八節の備品購入費で二十七万一千円計上いたしましたのが、これは北条小学校の職員室、校長室の机、椅子を購入させていただこうというものでございますが、北条小学校は従来職員室で使っておりました机は、現在特別教室で使用しております。職員、校長の椅子も今まで買いかえの要望が数たびありましたが、新校舎ができたあとに買いかえたらいいだろうということで今まで延期しておりましたので、ここにお願ひするものでございます。次の二目の教育振興費の十八節備品購入費で四十万円計上いたしましたのが、これは本間市長の指定寄付によりまして、富崎小学校の学校図書を購入費でございます。

十九節の負担金補助及び交付金で五万二千円の減額をしましたが、これは準要保護の児童の修学旅行扶助費が今年度申請額一応認められましたので、これだけの不用が生じますことが明らかになりましたので減額するものでございます。二十節扶助費は国からの補助単価の値上りによりますものでございます。

次に、三目の学校建設費におきまして、九節の旅費で八万円、十一節の需用費で十三万一千円、十二節の役務費で一万円、十三節の委託料で七百二十五万四千円、十八節で五万三千円それぞれ計上いたしましたのが、これは

どれも館山小学校防音校舎建設に関係いたしましたして、防衛庁の内示がございましてそれに基づきまして計上したものでございます。現在内示を受けております館山小学校の建築面積は五、五二八平方メートルでこれに要します工事費は四十五年度単価で計算しますと、大体二億六千四百万円が予想されております。国はこれを四十六、四十七、四十八の三カ年に分けまして建築することを内示してきております。補助金を計算しますとまだはつきりしないのでございますが、概略一億七千万程度と思われれます。

十五節の工事請負費の十万円は東小の用務員室の便所の工事費でございしますが、現在東小の用務員室には便所がございまして、住み込みの用務員は三、四十メートル離れましたところがございますふだん子供の使っております便所を使っておるような次第でございしますのでぜひこれをお願いしたいと思ひます。

次に、三項の中学校費におきまして、報酬、職員手当を省略いたしましたして、十四節使用料及び賃借料で八千円計上いたしました。これは四中の運動場拡張のために運動場の東側の土地一、六三七平方メートル約五百坪でございますが、これを借り受けましてこの土地の借り上げ料を計上したわけでございます。

次に、十八節の備品購入費の五万円は一中の揚水ポンプがだいふいたんでおりますのでこれを買いかえようとするものでございます。

次に、二目の教育振興費におきまして十八節備品購入費で十二万七千円計上いたしました。これは国、県の補助金交付の内示に基づきまして補正をお願いするものでございます。

次の十九節の負担金補助及び交付金、扶助費は小学校の場合と同様の理由によって補正したものでございます。

次に、五項の幼稚園におきまして、十一節の需用費で六万六千円計上いたしました。これは北条幼稚園の水道料の三月末までの不足見込み分でございます。

十八節の備品購入費で十四万九千円計上させていただきましたが、これは東京都安房児童学園から指定寄付がこ

ございました。船形幼稚園の教材を購入するものと、それから北条幼稚園の職員四名の机、腰掛の購入と暖房器具の購入をしようとするものでございますが、北条幼稚園の机、腰掛は今まで職員室が狭うございまして職員は十二名おりましたが、机は八名分しか置いてございませんでしたので、今回その不足分四名分を購入させていただきます。暖房器も今まで八教室で運営してございましたものをただいま十一教室の運営でございまして、その不足分を購入させていただきます。以上でございます。

○ 社会教育課長 (小宮義夫君) 続きまして、六項社会教育費のうち社会教育総務費、公民館費、図書館費について御説明申し上げます。いずれも社会教育関係の各種委員、非常勤職員の人件費増額分でございます。

ただ、一点社会教育総務費のうち十二節役務費の中で一万二千元をお願い申し上げます。内訳はそこにごさいますように国分九百二十一番地の原田誠一さん所有の水田から約一千三百年前と推定されます国分寺跡の礎石が一個現われて参りました。これを掘り出してただいまの国分寺の境内に運搬する運搬料でございます。

○ 保健体育課長 (川上賢爾君) 保健体育費についてお願い申し上げます。一目の保健体育総務費一節報酬四万五千元は十五名の体育指導委員報酬アップに伴うものでございます。

二目体育施設費でございますが、賃金四万五千円温水プールのボイラー、スポーツバスの運転手の賃金三月までの不足見込みをお願いしております。

十一節の需用費三十六万二千元は温水プールの水道使用料三月までの不足見込み四十万二千元。それから食料費四万円の減額補正でございますが、温水プール落成式に伴う節約によって生じたものでございます。

十二節の役務費でございますが、九月議会でお認めいただきました火災保険料四万円の減額でございます。

十三節委託料三千円の減額温水プール電気保安業務委託料予定より遅れましたので三千円の補正をお願いする次第でございます。

十八節備品購入費三十一万八千円の減額補正でございますが、温水プールの事務用器具購入費のうち寄付をいたしたものです。あるいは契約時点で安価に購入できたものがございましたので、三十一万八千円の減額補正をお願いしたわけでございます。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 以上で歳出の説明を終らせていただきます。歳出総額八千八百七十一万八千円の追加額ということに相成ります。

続きまして歳入の説明に移ります。一〇ページでございます。今回市税におきまして総額千六百十万円を追加いたしてございます。市税のうち各税目ごとに申し上げますと市民税二十万円、市民税の個人、法人ともまだ流動的な数字でございますが、現在の調定額から勘案いたしましたして、市民税の個人におきまして一億五千六百八十九万円程度の最終調定額、法人におきまして五千二百八十万程度の最終調定額というふうに押えまして収納率を掛けまして、それぞれ今回四百七十万、五百五十万を追加補正をいたしました。

軽自動車税におきましてもまだ多少の動きはございますが、現在千六百二十五万円程度の調定額でございますので、最終調定額を千六百五十万と押えまして収納率を掛けまして、今回八十万円の追加補正額でございます。

電気ガス税につきましては、まだ不確定な数字も多うございますが、月々のものを前年のものと比較いたしますと、ほぼ三千五百六十万程度というふうに最終調定額を予想いたしておりますが、これは大体一〇〇%入りますので今回二百四十万追加いたしてございます。

都市計画税におきまして本年現年度課税として二百七十万円の追加をいたしてございますが、都市計画税におきましてはほぼ調定額を満たしておりますが、あと四十万程度ふえる見込みで最終調定額を三千五十二万というふうに押えまして二百七十万円を補正いたしてございます。以上で市民税総額千六百十万円ということに相なります。

五款地方交付税として今回千八百八十四万二千円計上してございますが、普通交付税はすでに決定をいたしましたの

で、当初予算との差額九百六十九万一千円を普通交付税分として計上してございます。特別交付税におきましてはまだ最終決定には至っておりませんが、おおよその見通し、内示そういうものを合せまして当初予算との差額四百七十七千円を追加予定をいたして計上いたしました。さらに普通交付税分の再算定分として給与のベースアップの改訂というようなことから再算定が行なわれるわけでございますが、現在の見込みとして約千六百万程度を予定いたしてございますが、現在これは確定をいたしてございませんで、今回の補正人件費にからみ合わせまして五百四万四千円だけ計上いたしてございます。以上合わせまして交付税総額千八百八十四万二千円でございます。

七款負担金につきましては歳出に対応いたします数字でございますので、説明欄により御了承をたまわりたいと思います。国、県支出金合わせまして今回三千六百五十六万九千円を計上いたしてございます。これまた歳出に対応いたしましたそれぞれ内示あるいは指示されておる数字でございます。大きなものは一一ページの中段にございます児童福祉措置費負担金の五百四万八千円、生活保護費の負担金千二百六十四万六千円、一二ページにございまず騒音防止対策事業実施設計費補助金いわゆる館山小学校の防音校舎の改築関係の補助五百二十五万、県支出金におきましては、一三ページにあります河川水波菌装置の整備補助百三十六万二千円、千葉県水産業近代化施設設置事業補助金の百二十万、農村協同館の補助百万、豊房の育成牧場関係の補助百二十五万、山本巖道の県負担金五十万、県知事及び県議会議員選挙の九十万等がおもなものでございますので、他は説明欄により御了承をたまわりたいと存じます。

十一款の財産収入といたしまして基金利子で四万六千円計上いたしました。奨学資金の基金利子でございます。奨学基金は別に口座を設けて基金として整理いたしておりますので、利子をたん歳入いたしましたして積み立てをしていくというような関係で四万六千円増額分のを計上いたしました。

寄付金として総額六十四万一千円計上いたしてございますが、大きなものは農林水産業関係の漁港整備に伴う、あるいは農村協同館建設に伴う補助の内示あるいは内定に伴う増減でございまして、農林関係の寄付金四十六万、教育費関係で四十四万市長の富崎小学校への寄付金四十万、安房児童学園の那古小の寄付金四万、奨学資金関係で十万一千円の寄付金の増でございまして。

十三款の繰入金として今回十万八千円の計上をいたしました。奨学資金繰り入れ金でございまして。

十四款の繰越金として今回百二十七万七千円を計上いたしてございます。総額繰越金五千八百七十万三千円ということになりまして四十四年度繰り越し額は全額今回をもって計上済みということに相なります。

十五款の諸収入におきまして今回の補正額が七百四十八万でございまして。そのうち競輪収入として七百四十万円を計上いたしまして、競輪収入総額一億三百五十二万という予定を立てました。競輪収入につきましては、現在五回、六回分が精算されておりませんが、五回、六回のとりあえず分の配分金が参っておりまして、それを含めまして今回まで五千六百万円が収入済みということになっておりますので、あと四回分と五回、六回分の精算分の差額それを勘案いたしまして今回七百四十万円を追加いたしました次第でございます。

雑入として八万円を収入いたしました。これは先ほど歳出のときに御説明を申し上げました自動車事故に対する保険会社からの共済金でございまして。

十六款の市債として今回五百九十万を追加をいたしました。起債につきましては当初予算の際に申し上げましたとおり、国の補助の基準あるいはワク等のきまらない段階で市の予算が成立をするということで、年々若干の増減があるわけでございますが、本年度分のこの品目につきましては、国の補助額、補助基準あるいは起債のワク、起債基準というような関係からいろいろ折衝をいたしました結果、老人福祉センター事業については七百五十万、漁

港整備負担金、港灣整備の負担金等に支払うための資金に対する起債としてそれぞれ二百萬、三百五十萬といふものが国のワク等の關係から受けにくいといふことで、そのかわり教育費に対して用地取得としてつけようといふようなことになりましたので、教育費關係で千八百九十萬円起債額が増といふことになりました。市債として差し引き五百九十萬が増といふことに相なりましたので、今回一般財源で予定しておりました北条小、幼稚園分のもを計上し、五百九十萬円を一般財源と財源補正をいたしたいといふ予定のものでございます。以上で歳入の説明をごく簡単に終らせていただきますが、歳入も八千八百七十一萬八千円といふことになりまして、歳入歳出差し引き残金なしといふことに相なります。

この予算が議決されますと、一般財源と特定財源との比率は累計で申し上げますと、一般財源六九%七三、特定財源が三〇%二七といふ比率に相なります。今回の補正におきます一般財源、特定財源の比率、一般財源四九・九八、特定財源五〇%〇二といふ比率に相なっております。以上で一般会計補正予算の説明を終らせていただきます。

○保健課長（網島憲治君） 四五ページ、第二回目の補正予算をお願いするわけでございますが、二百九十二萬円を追加いたしましたので、歳入歳出それぞれ三億四千五百五十三萬三千円とする予定でございます。歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第一表歳入歳出補正予算によるということに相なります。

五〇ページ、事業勘定の歳出でございますけれども、人件費でございますので省略させていただきました。続きまして、直営施設勘定でございますが、今回の補正の主たるものはこれでございますが、施設管理費一目的の一般管理費におきまして旅費五千円三月末までの不足分でございます。

十五節工事請負費七十萬円でございますが、これはたしか昭和四十二年だつたと思ひますが、予算十七萬円をもちまして雨漏りの工事をした記憶がございます。それで修理いたしました。この十一月二十日ですか、大雨のとき

にやはり漏り出したのでございますが、なかなか原因、その他にはちょっと私どもにはわからないのでございますけれども、漏る個所が電気まわりのところが漏りますので、危険を感じておりますので今回お願い申し上げた次第でございます。

医業費におきまして医療器具の修繕料といたしましてX線装置修繕料五千円、それから医療用消耗器材費レントゲンフィルム代九万、医薬品衛生材料費医薬品購入費二百万、それから検査委託料十二万これがそれぞれ当初予算におきまして計上しました歳入の裏づけをなします消耗品、その他でございます。当初予算におきまして約二百万程度の歳入を見積っておったわけでございますけれども、実績といたしまして二百二十五万程度のものが見込まれる。このように考えております。それに対するそれぞれの収入を得るための費用でございます。

それから四一ペーシの歳入でございますけれども、それぞれの区分に従いましてこの程度の歳入が見込まれるわけでございます。付記欄の説明により御了承をいただきたいと存じます。以上です。

○ 水道課長 (大嶋重義君) 五三ペーシ議案第八十五号につきまして御説明申し上げます。

今回第三回目の補正でございます。歳入歳出の総額にそれぞれ百四十九万七千円を追加いたしましたして、歳入歳出それぞれ二千三百四十万四千円にしようとするものでございます。その内容につきましては、事項別明細書によって御説明申し上げます。

歳出におきまして一項の総務管理費三十一万二千円の追加でございます。大きなものは賃金で十万円でございますが、これは宮城の浄水場におきまして、あそこは緩速ろ過でございますのでたえず砂上げを行なうわけでございますが、上げた砂を洗うには水が十分あるときでなければこれができないのでございますが、秋から冬にかけて水事情も十分でございますので、この機会に砂洗いをいたしたいということでございます。この砂洗いの人夫賃延べ百人分十万円の追加をお願いしたいというものでございます。

それから、報償費におきまして五万六千円の減額でございますが、水道料金の納付につきましては、水道協力会にお願ひして納付してもらっております。この予算編成時までにはこの報償金を納付書の通知割と水道料金割と世帯割とこの三つに分けて、推定で予算を立てたわけでございますが、本年度に入りましてやはり納税組合等に準じて扱うということでございまして、館山市の使用料納入規程ができましたので、これにのっとりやるということになりまして、世帯割を廃止することになりましたので、その分が支払いが不能になりまして五万六千円減額いたしましたというものでございます。

需用費一万四千元は付記に書いてあるとおりでございます。役務費につきましても一万五千元、指定工事店等ができました通知、連絡等に郵便料が不足しましたのでお願いするものでございます。

それから、二項水道管理費におきまして百八万五千円の追加でございます。その中で需用費四十二万一千円でございますが、このうちおもなものは光熱水費十七万円でございますが、これは電気料でございます。水道の施設は四カ所ございますが、当初百七十万予算に組んだわけでございますが、本年度は西岬の水道から宮城への応援送水を行なったり、宮城のせきからのモーターを使つての水をくみ上げたり、それからさらに本年度は使用の伸びがあったということで電気代が当初予算よりかさみましたのでこれを三月までの不足分として十七万円の追加でございます。それからもう一つ修繕料でございます。特にこの中で水道の施設の修繕料十五万七千円でございます。これは蛇切の浄水場に親メーターといひまして、浄水場から山に水を送るわけでございますが、これをはかる計器が故障いたしましたので修理いたしたいということでございます。

工事請負費で四十二万八千円でございます。これは宮城の浄水場の沈でん池でございますが、これは御承知のように沈でん池が原始式のいわゆる自然方式で行なっているわけでございますが、沈でん効率を上げるためには改造をしなければなりませんので当初予算にも計上いたしたわけでございますが、その後研究いたしまして、ただ迂流

式よりも上下迂流式といひまして南部の水道で使つておりまして、ああした方式のほうがより以上効率が上るといふことでこれに改めたいといふものでございます。これが大体七十万かかるわけでございます。当初七十万千円の予算がございまして、差額の不足を補止いたされたといふものでございます。これができ上りますというところ、宮城の浄水場におきましては自動的に操作ができてまして、夜中に職員が操作しなくてもよろしいということや、沈でん池が二つありまして一つが予備に使われていくというふうな非常に利点があるわけでございます。そういうことでお願いするものでございます。

それから原材料費で三十三万六千円の追加でございます。御承知のように、水道におきましては浄水、滅菌用といたしまして硫酸アルミ、ソーダ灰、塩素、硫酸銅こうしたものがいるわけでございます。予算にも八十八万三千元組んだわけでございますが、今年には各水道とも使用が一般にふえて参りまして、特にその中で南部それから西岬等は特にふえたわけでございます。それ以外に一部異常天候等もございまして水質の変化がございまして、これに對する処置に薬剤が使用されたというふうなことでその面が当初予算よりもかさんで参りまして、あと三月までの分につきましては三十三万六千円程度不足するということで計上いたしたわけでございます。薬の内容でございますが硫酸アルミ九万九千円、ソーダ灰が十五万円、塩素が八万五千円、硫酸銅が二千元このような内容でございます。以上歳出の総額が二千三百四十万四千円でございます。

次に、歳入でございますが、手数料におきまして四十一万七千円でございます。この内容でございますが、指定工事店を指定いたしませんに關連いたしまして、給水装置の技能者の登録でございますが、当初予算におきまして四十五人を計上いたしたわけでございますが、實際登録を締め切つてみますと、これが八十四人ございまして三十九人増加でございます。一人三千円でございますので十一万七千円、それから指定工事店でございまして、第一種、第二種と分けまして、第一種を十店、二種十店こう組んだわけでございますが、これも登録を締め切つた結果第一種が二十五店、第二種が二十店ということで、この關係で三十万増を計上いたしたわけでございます。

水道寄付金におきまして百八万でございます。これは水道に新規加入する場合に普通一般一三ミリの場合は三万円
の加入寄付金を取っておるわけでございます。当初予定したよりも本年度相当加入者がふえて参りまして、あと
三十六戸分の増が見込まれますので、この分一戸について三万円を計上いたしました。補正後の歳入総
額は二千三百四十万四千円でございます。歳入歳出差し引きなしというような内容でございます。

○ 衛生課長 (牧野喜一君) 五九ページと畜場特別会計の二号の説明を申し上げます。

二十四万一千円を追加補正いたしまして歳入歳出それぞれ五百二十四万九千円となるわけでございます。細部に
つきましては事項別明細によりまして御説明申し上げます。

六二ページ歳出でございますが、事業費の一般管理費のうち人件費の職員手当については省略さしていただきま
す。十五節の工事請負費で二十万でございますが、これは現在のタンクが高さが低いために水圧が下りまして食肉
の洗浄が思うように行なわれなれないということでポンプを新しく設置しようとするものでございます。そのために工
事請負費として二十万追加お願いいたしました。計二十四万一千円でございます。

歳入につきましては、前年度繰越金から二十四万一千円をこれに充てたわけでございます。歳入歳出総額それぞ
れ五百二十四万九千円ということに相なるわけでございます。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 六五ページ議案第八十七号休養施設特別会計補正予算につきまして御説明申し
上げます。

今回の補正予算におきまして歳入歳出とも三十万五千円を追加いたしました。それぞれ歳入歳出総額三千二百五
十七万三千円とするものでございます。補正内容につきましては六八ページの事項別明細書によりまして御説明申
し上げます。

今回の鳩山荘の補正につきましては、経営費におきまして三十万五千円を追加計上したものでございますが、一節需用費におきまして二十五万円を追加したわけでございますが、鳩山荘のいわゆる緊急の補正を必要といたします建物修繕料ということでお願いしたわけでございますが、本館と別館の各部屋の照明が非常に暗いということと螢光灯等の電気器具の取りかえを行なうということとでお願いしたわけでございます。そのほか食堂の床板が一部腐りまして補修を必要とする関係上、今回合わせまして修繕料二十五万円を計上いたしてございます。

次に、十八節の備品購入費五万五千円につきましては、主といたしまして従業員用に使用しております電気洗たく器が古くなりまして使用できないという状態でございますので、新たに一台四万円で購入したいということでございます。それから業務用のマージャンの牌が古くなりましてこれを三組新たに購入したいということで一万五千円を計上したものでございます。

十九節負担金補助及び交付金の六万円につきましては、県下の国民宿舍運営協議会負担金を当初に三万五千円を計上したわけでございますが、今年度は国民宿舍の運営協議会で共同入札をいたします国民宿舍のガイドブックを負担金に含めまして請求があったというような関係上、従来広告料として別に納付しておりましたものを今回負担金に含めて納付したというような関係で六万円を負担金として計上したわけでございます。

次に、歳入でございますが、前年度繰越金三十万五千円を追加計上したわけでございます。以上、歳入歳出総額それぞれ三十万五千円を追加いたしましたして、歳入歳出それぞれ三千二百五十七万三千円と相なるわけでございます。続きまして、議案第八十八号ユースホテル特別会計補正予算につきまして御説明申し上げます。今回の補正予算で歳入歳出とも四十四万八千円を追加いたしましたして、歳入歳出それぞれ六百七十五万一千円とするものでございます。内容につきましては十二ページの事項別明細によりまして御説明申し上げます。

経営費におきましていづれも営業上経常的に要します需用費あるいは役務費でございまして、需用費におきましては総額三十九万六千円を新たに追加お願いしたわけでございます。これはいづれも予算に不足を生ずるということとお願いしたわけでございます。十二節の役務費におきましても六万八千円を予算不足を生ずる見込みでございますので、新たに追加計上したわけでございます。以上で歳出四十四万八千円を新たに追加計上したわけでございます。

次に、歳入でございますが、歳入といたしましては、前年度繰越金四十四万八千円を新たに計上したわけでございます。歳入歳出それぞれ六百七十五万一千円といたしたわけでございます。以上で説明を終わります。

延 会

○議長（西村真次君） 本日の会議はこれにて延会といたします。次会は明十九日及び二十日の両日を議案審査のため休会とし、十二月二十一日午前十時開会といたします。その議事は本日に引き続き各予算案及び請願書の審議といたします。長時間ごくろうさまでございました。

午後四時十九分

延 会

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名員の指名

一、会期の決定

一、行政一般質問

一、議案第七十八号乃至議案第八十二号

一、議案第八十三号乃至議案第八十八号